



キルギスにおける協同組合発展と 協同組合銀行設立の課題

農業はキルギスの経済戦略上重要な産業であり、国内総生産の約20%を占め、労働力人口の30%以上が農業部門に従事している。しかし、現在の農業生産は依然として小規模農家によって担われており、生産性と競争力が低く、そのためキルギスの農産物は世界の市場に打って出ることができない。キルギスは、農業セクターの効率を高め輸出向けの生産を進めるための方法を模索しており、「キルギス持続的発展戦略2013-2017」では、農業の重要性を明記し、農業の発展を成功に導く唯一の道は協同組合を支援することであると認識を示している。また、農業・食品産業の発展のため協同組合銀行の設立が重要な課題になっている。

キルギスには既に多くの農業協同組合が存在し、法的枠組みや農村開発を支援する国際機関のプロジェクトが存在しているが、協同組合の発展に関してはいまだに問題が山積している。ソ連崩壊後、1990年代にコルホーズ(集団農場)の土地は小さな区画に分けられ農村の住民に分配された。その後、協同組合を立ち上げようとした農民もいたが、信頼関係や知識、動機づけが欠如し、協同組合の理念や利点についての情報が欠けていた。国際機関からの技術援助や生産能力育成支援、政府からの低金利資金などを利用して成功を収めた協同組合も一部にあったが、全体としてはキルギスにおける協同組合は十分な発展を遂げているとは言えない。政府は協同組合の重要性を理解し支援しようとしており、農業協同組合の発展に関する国家プログラムを推進する組織が設けられ、農村地帯の協同組合間の連携を強化する取組みを進めている。

加工、販売、供給、サービスなどの協同組合の事業を統合し一元化することが必要であり、組織化することで農業生産者が市場で大きな供給者として行動することができ、流通コストを削減し収益を上げることができる。このような地域間の連携がキルギスの協同組合の競争力を強化するのに貢献し、雇用を創出し、農業従事者の収入にプラスの影響を与えるものと期待されており、農業セクターの発展が繊維産業や食品加工業、貿易などの周辺セクターに相乗効果をもたらすことは間違いない。

キルギス協同組合連盟は、特に青果、乳製品、食肉の3部門において協同組合

による農業・食品事業の育成を進めようとしており、将来的にはそれが主要な農産物加工事業者として発展していくことが期待されているが、そのためにはインフラ面での支援、輸送・物流施設の整備が必要である。こうした協同組合の発展により、食の安全や農業生産の効率向上、研究開発が可能になり、農産物加工・物流等の専門家や技術者、管理者のための研修センターの設立や協同組合の監視システムの構築も可能になる。

さらに、農業セクターにおける最も重大な課題は、金融制度の整備である。農業への融資は高いリスクを伴うため、銀行の融資利率は20～30%と高く、担保要件を整えるための手続きも煩雑である。政府はかつてAgroprombank (APB) を通じて農業融資を行うプログラムを有していたが、1994年にAPBは閉鎖された。その後、広域行政や協同組合を通じて農業融資を行う仕組みが設けられたが、融資システムとして効果的ではなく、財源が限られていたため農業に必要な資金需要に十分には対応できていない。

キルギス協同組合連盟は、協同組合内の自己資金調達システムを構築するため、日本の農林中央金庫やカナダのDesjardins、フランスのCredit agricoleなどを手本にした協同組合銀行の創設を計画している。協同組合銀行は他の金融機関と違ってリスクを評価するための情報が得られるという利点があり、利用者が所有者でもあるという構造を持つため民主的な統制がとれ、商業銀行では対応できない分野に対する銀行業務を行うことが可能である。現在、キルギスでは協同組合連盟と中央銀行の主導のもとで協同組合銀行の設立を準備しており、協同組合銀行設立の理念や概念上の枠組みを定め協同組合銀行の法的な基盤についての作業を進めている。

キルギスの農業と協同組合の発展に向けて、国家レベルと個々の農業者レベルの双方において組織的な能力育成のための課題が山積している。政府には農業セクターの発展を推進するための行動とビジョンが求められており、農業者のレベルでは農業を事業として経営できる技術的能力を持つ人材を育成することが重要な課題になっている。

(キルギス行政管理学院 副学長

ナジック・ベイシェナリー (Nazik Beishenaly)

(本稿は、(株)農林中金総合研究所の責任において翻訳したものである。)